

主な調査成果の紹介

① 水辺で発見された縄文土器

平成 21・28 年度の調査では、低地部と低湿地部の境界で縄文時代後期（約 4000 年前）の土器が集中して出土しました。土壌には植物の茎や葉が多量に含まれており、当時の周辺環境が葦などの植物が群生する湿地帯であったことが想定されます。これらの土器は破損して廃棄されたものと考えられますが、破片が大きく完形品も多いことから、何か特別な理由でこの場所に置かれた可能性もあります。いずれにしても、近くに集落などの生活域があったのではないのでしょうか。

② 湿地で奇跡的に保存

平成 19・20 年度の調査では、低湿地部から多くの木製品が出土しました。土中に埋まった木製品は腐食して残存しない場合がほとんどですが、この場所が湿地であったため良好な状態で保存されたと考えられます。注目されるのは、弥生時代末～古墳時代初め頃の農具類の出土です。右上の写真は曲柄平鍬とよばれる農具の一部で、柄を取り付けるための穴が開けられています。右下は板状に加工された木材で、長さ約 270 cm・幅約 26 cm・厚さ約 3 cm もあり、ほぞ穴などの加工痕がみられます。同様の遺物が、遺跡の北側に所在する南下遺跡からも出土しています。

③ 溝の中から“標式土器”

平成 25 年度の調査では、低地部から弥生時代末～古墳時代初め頃の溝状遺構が検出されました。確認された部分の長さは約 18m（幅約 110 cm・深さ約 70 cm）で、断面は U 字形をしています。溝の中には「中津野式土器」の破片が多数入っていました。破片をつなぎ合わせてみると甕（5 個体）と蓋（1 個体）が復元できました。これらの土器は、溝のくぼ地を利用して廃棄されたのかも知れません。

④ 低湿地の土木工事

平成 26・28 年度の調査では、低湿地部から南北に延びる近世（400～150 年前）の土木遺構（杭列）が検出されました。この遺構は地盤の弱い低湿地に堤防もしくは道路を構築するための基礎部分と考えられ、軟弱な地盤に加工した木杭を無数に打ち込み、その上に木の枝の束（粗朶）や丸太などの木材を敷き補強しています。杭は長いもので約 2 m 以上もあり、湿地帯での作業の困難さが伝わります。中津野と尾下の台地を結ぶ連絡通路だったのかもしれません。



縄文時代後期の土器



曲柄平鍬（上）と加工木材（下）



溝状遺構内出土の「中津野式土器」



土木遺構に使用された杭・粗朶・丸太

〔現地説明会資料 平成 29 年 2 月 4 日（土）〕



① 考古学史に残る”標式遺跡”

昭和 25 年、今回の説明会場から約 500m 東側の畑地（標高約 30m）から、竪穴住居状の遺構が発見されました。調査を担当したのは、当時、玉龍高校教諭であった河口貞徳先生（1909～2011）です。遺構の中からは、ほぼ完全な形の土器（壺・甕）が多数見つかりました。

これらの土器は、その形状が弥生時代から古墳時代への転換期に位置づけられるとされ、発見地名をとって「中津野式土器」と命名されました。このような遺跡を“標式遺跡”とよびますが、このことから、中津野遺跡は考古学史に残る記念碑的な遺跡の一つといえます。

② 現在調査中の中津野遺跡について

現在の調査は、国道 270 号（宮崎バイパス）改築工事に伴うもので、今年度は、県立埋蔵文化財センターが 11 月から 3 月までの予定で取り組んでいます。これまでに旧石器時代から江戸時代まで、様々な遺構・遺物が発見されています。

南北に長い（約 900m）調査区の地形は、大まかに北側の低湿地部（標高約 5m）、中央の低地部（標高約 9m）、南側の台地部（標高約 25m）に分かれています。

現在の田布施平野一帯には、古くから内海や湿地帯が広がり、尾下・中津野などの細長い丘陵や台地が遠浅の入り江に突き出るように形成されていたようです。こうした土地は水・食料を得やすく生活に適していたため、中津野遺跡の周辺でも貝塚や集落などの遺跡（下原遺跡、阿多貝塚、上焼田遺跡、松木藺遺跡ほか）が数多く見つかっています。



（ ● 現在 ● 昭和 25 年 ）



中津野式土器（「河口コレクション」）



鹿児島県立埋蔵文化財センター



TEL（代表） 0995-48-5811
ホームページ <http://www.jomon-no-mori.jp/>

中津野遺跡 調査区概要



【凡例】

- ・これまで調査した所…
- ・現在調査している所…
- ・これから調査する所…



台地部から低地部方向を望む



掘立柱建物跡 (中世～近世)



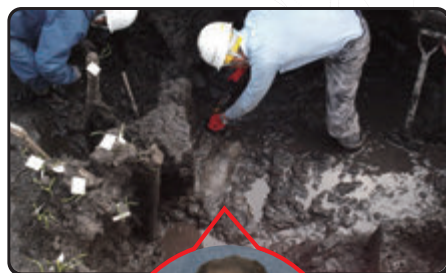
溝・かまど検出状況 (近世)



土木遺構 (杭列) の検出状況 (近世)



溝状遺構検出状況 (弥生～古墳時代)



土器集中部 (縄文時代後期)

台地部

低地部

低湿地部

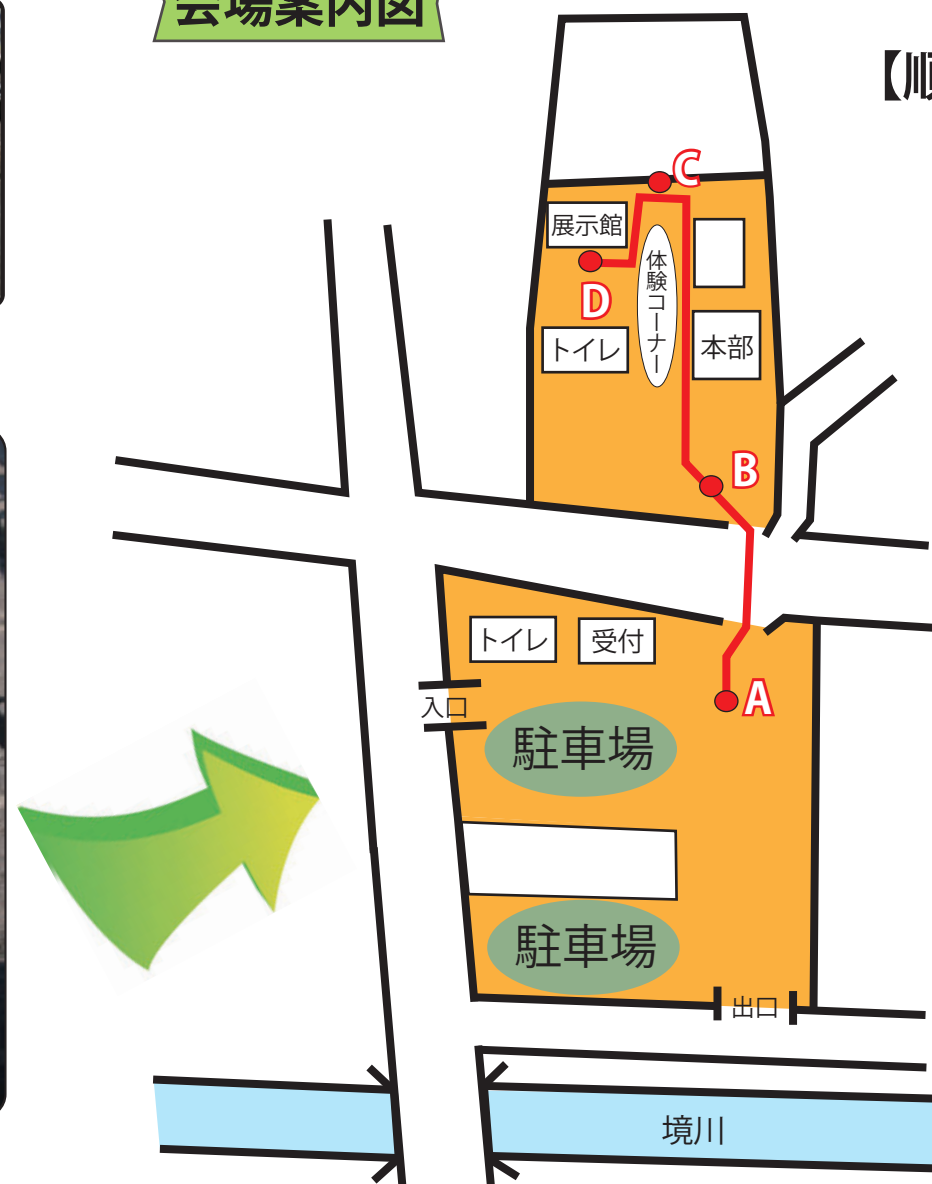
これまでの調査で発掘された主な遺構・遺物

	時 代	遺 構	遺 物
台地部	旧石器時代	礫	黒曜石片
	縄文時代前・中・後期		土器, 石器 (石鏃, 石匙, 石斧, 石皿, 磨石)
	弥生～古墳時代	溝状遺構, 竪穴住居跡	中津野式土器
	古代～中世	柱穴	須恵器, 土師器, 輸入陶磁器
	近世	道跡, 掘立柱建物跡	薩摩焼
低地部	縄文時代後期	土器集中部	土器, 石器 (石鏃, 石匙, 石斧, 石皿, 磨石)
	弥生～古墳時代	溝状遺構	中津野式土器, 石器 (磨製石鏃, 磨製石斧)
	古代～中世	柱穴	須恵器, 土師器, 輸入陶磁器
	近世	溝状遺構, 炉跡	薩摩焼
低湿地部	弥生～古墳時代		木製品 (鋤, 鋤, 杭, 建築部材など)
	近世	土木遺構 (杭列)	薩摩焼, 古銭 (寛永通宝), 木製品 (椀, 下駄)

会場案内図

【順路】

- A** 遺跡の概要・低湿地部の調査について
- B** 発掘作業の実際について (見学)
- C** 低地部・台地部の調査について
- D** これまでの調査で出土した遺物の展示



土木遺構 (杭列) の検出作業の様子